

# NPO法人石の里広島との連携

## 1 生活維持事業などの調査・提案の連携

人口が減少し、高齢化が高まったことで、生活環境を維持するサービスが維持できなくなっている現実がある。買物や電気器具の補修などもその一つであり、生活維持のための事業展開についてNPO法人石の里広島がどう連携できるかを調査し、コミュニティとして提案していく、実践的に成果が見える連携の強化が必要となっている。

## 2 事業の啓発・参加等の連携

NPO法人石の里広島が行っている事業は島民の要望から発展していることを再認識してもらうために、事業自体や参加することでの効果等を啓発する。また、参加等でコミュニティが主体的に関わる連携が今後NPO法人石の里広島を維持・発展させる上では、不可欠である。

# 島づくりへの基本姿勢

## 1 地域の課題の解決に向けて、 自分たちで考え、取り組む姿勢を持つ

コミュニティを取り巻く環境が厳しさを増す中で、コミュニティ活動の充実が求められています。地域で実際に住んでいることが強みとなります。それは、課題を見つけること、自分たちが実践することで活かされます。個々人の問題を自分たちの問題として意識することで、地域の共同体としてのコミュニティの繋がりが太い絆となっていきます。

## 2 地域内の諸団体との 連携を深める

島内ではコミュニティの構成団体やその他の団体がありますが、これらと密接に連携を深めることで、自らの活動範囲が広まったり、情報収集、情報発信が充実することなどがあり、諸団体の力の結集へ結びつく連携は重要となる。

## 4 展望を持ち、無理は しない、できること から取り組む

課題は多く、取り組むことも多岐に亘っています。それを全て一度に取り組むことには無理があり、無理をすると組織の維持に困難をきたします。できることを段々と広げながら、無理せず、展望を持って進むことが継続の基本となります。

## 3 コミュニティ組織 強化を常に考える

計画を実践していく中で、活動が強化され、計画の目的の達成へ進んでいくが、その目的だけでなく、組織強化の視点を持つことが、次の段階へ発展に繋がる。

# 具体的な実施へ向けて

## 現状把握

### アンケート、ワークショップで

現状を把握することから、何を目標にして活動していくかが明確になります。そのためには、今の状況や何が求められているかなどを適確に把握することから始まります。

## 人材の養成

### ワークショップ、講習を活用

具体的に活動するには、今ある知識や経験を活かすことだけでは困難になる場合があります。新たな知識や能力を高めていくためには、研修を実施しながら進んでいくことが効率的です。

## 工程表の作成

### 作成会議で

目的・目標が定まったら、それに向けての工程を確認する適切な工程表の作成で計画が実践できます。

## 行動→考察→評価→改善→行動→

前向きに進行管理を行うことで、行動の無駄が少なくなり、効率的になり、少ない労力で達成ができてやすくなります。